

生野高校の<sup>いま</sup>現在

例年より短い夏休みが終わり、2学期に入ってから早いもので2ヶ月半が経過しました。その間、様々な制約はありますが、今のところ例年に近いレベルで充実した教育活動が実践できています。これを当たり前と捉えず、皆で感謝したいと思います。なお、学校HPのブログには、その都度詳細をアップしていますので、ぜひご覧ください。

この2ヶ月半での教育活動のうち、以下の4つについて紹介します。

まず、1つ目は、9月下旬に行われた体育大会です。コロナ禍の影響を考慮し、開催の有無も含めて夏休み前から検討を重ねてきました。その結果、内容を吟味したうえで、半日開催で実施することができました。特に印象深かったのは、生徒会種目について、生徒たち自身がソーシャルディスタンスに配慮し、工夫された内容を考えてくれたことです。

2つ目は、オープン・ハイスクールです。第1回が9月19日、第2回が11月7日にそれぞれ開催されました。今年度は広報活動として、朝来市内の中学校はもちろん、播但線南方沿線の中学校へ広く広報を行ったり、学校紹介動画やリーフレットを作製するなどしました。それが効を奏したのか、多くの中学生、保護者の方々が学校を訪れてくれました。生徒たちも中学生との座談会に参加するなど、学校一丸となって取り組むことができました。

3つ目は、探究学習です。以前にも紹介しましたが、本校は昨年度から3年間、文部科学省による「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」推進校の採択を受けています。今年度もコンソーシアムとよばれる周囲の支援を受けながら、計画的に探究活動に取り組む予定でしたが、コロナ禍により変更を余儀なくされました。しかしながら、コンソーシアムのご理解、ご尽力のお陰で、10月以降、滞っていたフィールドワーク等も再開され、限られた条件下ではありますが、最大限の取組を行うことができます。

4つ目は、「オンライン国際交流プログラム」です。これは、本校の観光・グローバル類型の1年生が、インドおよびマレーシアの生徒たちとオンラインで交流する試みで、朝来市様の支援のもと、11月からスタートしました。コロナの影響により、予定していたオーストラリアやフランスへの海外研修が相次いで中止となる中、実践的な国際交流の機会として意味のあるものにしていきたいと考えています。

気が付けば、校庭の木々も色づきはじめ、秋の深まりを感じさせます。充実した教育活動が今後も継続できることを心から祈る今日この頃です。



△オンライン国際交流プログラムの様子



△色づく校庭の木々

令和2年11月9日

兵庫県立生野高等学校長 福田 孝善